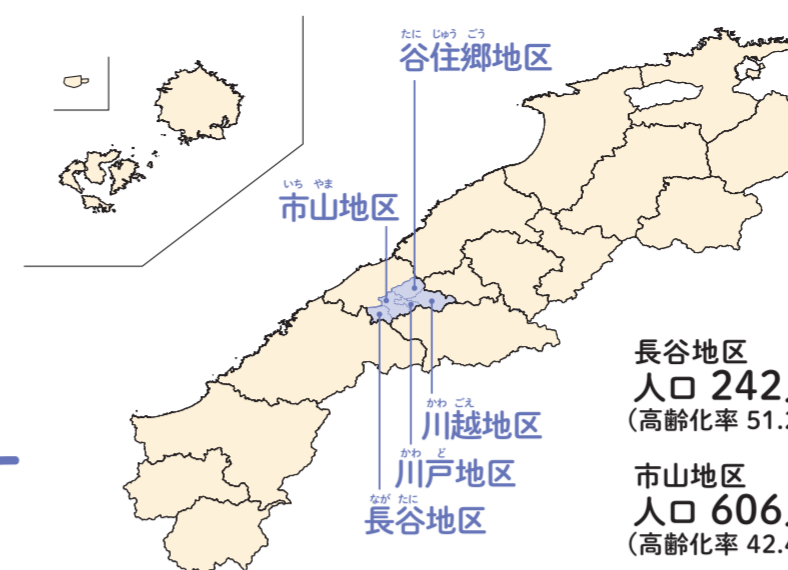




# 江津市桜江地区

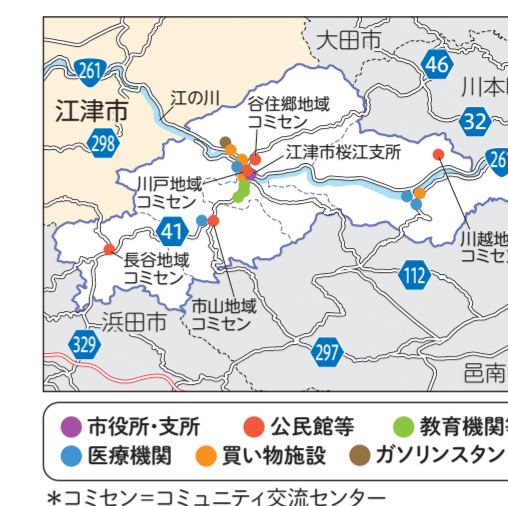
さくらえ

旧町エリアの連携した取組で  
いつまでも安心して住み続けられる地域を目指す



川戸地区 人口 555人 (高齢化率 42.9%)	谷住郷地区 人口 374人 (高齢化率 48.4%)
長谷地区 人口 242人 (高齢化率 51.2%)	市山地区 人口 606人 (高齢化率 42.4%)
川越地区 人口 460人 (高齢化率 55.4%)	

令和5年4月末時点



\*コミセン=コミュニティ交流センター

## 地区紹介

- ・江津市の南東部に位置し、平成の合併前は1つの町であった桜江地区。
- ・5地区で構成される桜江地区は、東西を江の川が流れ、何度となく水害と闘ってきました。
- ・少子高齢化により担い手不足が進み、地域活動が困難になりつつある中、安心して住み続けられる桜江地区を目指して、連携した取組が進んでいます。



## Background これまでの地区のあゆみ

- H16.10 桜江町が江津市と合併 / 約60年の桜江町の歴史に幕
- H19 すみえっくらぶを開始【谷住郷地区】  
学校の振替休業日に地域の大人が小学生と交流し、見守り活動を実施
- H25 サロン こしかけを開始【川戸地区】  
気軽に立ち寄り、住民が休憩しながら交流できる場として、旧川戸駅舎の待合室を利用したサロンを月2回実施
- H26 まごころ市を開始【市山地区】 高齢者が生産した野菜の販売市を毎月開催し、生きがいづくりに
- H27-28 5地区に各地域コミュニティ組織を設立  
地域の課題を住民で話し合い、解決策を考えて実践する組織を設立 (H27:長谷、市山地区、H28:川戸、谷住郷、川越地区)
- H28 県の現場支援地区に選定(H28.9~H30.3)【市山地区】
- H29 移動販売の開始【川越地区】 商店の廃業により買い物が困難になった住民のために、移動販売で支援
- H30 H30.7月 豪雨災害 / 江の川と支流の八戸川が氾濫し、桜江地区が甚大な被害に見舞われる
- H31 相乗りタクシーの開始【長谷地区】 市の助成を活用して、ドアツードアで送迎する相乗りタクシーの取組を開始
- R2 さくらえ地区小さな拠点推進協議会を設立 / 桜江地区内5地区が連携した取組を開始
- R3.3 交流拠点施設「3Colors」を開設

## 私たちのやり方

### Our Project



### 5地区の自主防災組織が連携した 防災力の強化

毎年のように起きる災害に備えようと5地区がお互いに連携、支援する体制を構築し、防災力を高める取組が進められています。防災研修会やワークショップの開催、防災士などの防災リーダーの育成にも取り組んでいます。

### 地域の活動を広げる 交流拠点施設「3Colors」

長らく空き家となっていた本屋を改修して、地域の交流拠点「3 Colors」がオープンしました。現在、多世代交流や高齢者サロンなど新たな活動の場としての活用が検討されています。



## 今後の計画 Our Planning

### 1. 地区防災体制の構築

- 地区防災計画の策定 ●自主防災組織の連携体制の構築
- 防災士等の養成 ●川越地区防災拠点・避難拠点センターの運用

### 2. 若年世代の定住促進

- 多世代居住の推進 ●交流拠点施設「3Colors」の活用推進

### 3. 高齢者の生活利便性の向上

- 移動販売の実施 ●買い物送迎サービス事業の実施

